

多くのご意見をお寄せいただき
ありがとうございました。

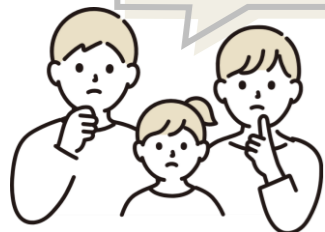
よくある質問と回答 (令和6年3月改訂版)

国立天文台周辺のまちづくりに関し、これまでに子ども
たちや保護者、地域住民等の皆様からお寄せいただいた、
よくある質問について回答します。

Q&A33

1 新しい学校について

Q1 通学距離が
遠くなるこ
とが心配です



A1 天文台敷地北側ゾーンへの学校移転に伴い、通学距離が長くなる
ことへのケアや通学サポートの詳細などに対し、多くのご質問をい
ただいています。通学距離は、最大2km程度となることから、小学1~3年
生の低学年児童を対象とすることを軸にスクールバス等の運行について、
ある程度歩くことの必要性も含め検討しています。今後、学校や保護者の皆
様のご意見もお聴きしながら、段階的にお示しをしていきます。



Q2 4年生以上はスクール
バスに乗れないの？
学童から帰るときは
どうなるの？



A2 保護者の皆様等からは、中・高学年児童の通学や
学童・クラブ活動を含む夕方の下校に対し、不安
の声を多くいただいています。お子様の状況や、ご自宅の
立地状況等は、ご家庭ごとそれぞれ違いますので、通学サ
ポートの詳細について、学校や保護者の皆様のご意見もお
聴きしながら、今後、本格的に検討を進めます。

Q3 昔、大沢台小へは、
歩いて通学したから
歩くことは可能だろうが、
通学路が暗くて危ないところ
がある！



A3 大沢地域の中高年代の皆様には、大沢台小、第二小や第二中まで
通われた方もいらっしゃると思います。これまでの説明会でも、昔と違い、
現在は天文台通りの歩道も整備され、子どもの心身の健康面や体力面で一定
程度の距離を歩くことも重要とのご指摘をいただきました。また、通学路の一
部に夜間暗かったり、見通しが悪いなど不安な箇所があるとお話を寄せ
いただきました。安全・安心に通学できる通学路の整備を検討していきます。



Q4 なぜ羽沢
小を移転
するの？



A4 羽沢小は浸水予想区域内に立地することから、風水害時に避難所を
開設できないなど防災上の大きな課題を抱えています。天文台敷地
の安全な高台に、仮設校舎が不要な手法で移転先が確保できるこの機会を捉
え、子どもたちの安全・安心な学校施設等の整備により、地域の防災拠点化を
図ることが可能となります。また、自然豊かな学習環境のもと、おおさわ学園
としての連携強化や天文台と連携した魅力あふれる教育の展開、さらには、跡
地利用も含めた総合的なまちづくりに取り組むことができます。



Q5 なぜ
大沢
台小も移転
するの？

A5 羽沢小の移転先となる天文台敷地は大沢台小の学区内となります。
新校舎で、天文台と連携した魅力ある教育を大沢台小の児童も一緒に受けられ
るようになるため、大沢台小についても移転します。また、これにより、義務教育学校の制
度を活用し、第七中を含めたおおさわ学園として小・中一貫教育をさらに進めた一体的な
教育を実現します。なお、大沢台小・羽沢小は、近い将来1学年1クラスとなることが見込ま
れており、子どもたちが多様な人間関係の中で学校生活を送れる一定の集団規模を確保
することが望ましいと考えています。

Q6 移転後は
どんな
学校になるの？



A6 新たな学校は、子ども一人ひとりの学習進度や個性に合わせて学
びを深め、自己の可能性を最大限に引き出す「個別最適な学び」と
多様な他者と協働しながら学びを深める中で、持続可能な社会の創り手と
なる資質・能力を育成する「協働的な学び」が効果的に実現できるよう、可変
性やゆとりのある空間を確保し、あらゆる空間が学びの場となるよう整備し
ます。また、天文台の自然を活かした森の学校として、快適でぬくもりのあ
る生活の場を提供し、体験活動やSTEAM教育(※)により、天文台と連携し
た魅力ある教育を推進します。さらに、第七中と隣接することで、義務教育
学校の制度を活用した新しい小・中一貫教育が行えるため、義務教育9年間
の教育効果を高めることができます。



※STEAM教育は、一般的に理系・文系と分断せず、分野横断的な総合知を身に付ける教育です。
探究的な学びを進めるうえで必要な課題発見や解決力をはぐくむ教育です。
Science:科学、Technology:技術、Engineering:工学・ものづくり、
Arts:芸術・リベラルアーツ、Mathematics:数学の頭文字です。

Q7 義務
教育学校と
は何です
か？



A7 義務教育学校は平成28年に小・中一貫教育を推進するために制度化されたもの
です。小学校と中学校を1つの学校として、1つの教員組織で学校教育を行います。
これまで三鷹市が取り組んできた小・中一貫教育をさらに発展させるものと考えています。
なお、都内では品川区や八王子市で実績があります。
メリットは、小・中の教員が1つの組織となることで、より一体的な指導ができること、小学
校での教科担任制を実施しやすいこと、小・中を超えて子どもたちの縦の関係を活かした教
育活動を行いやすくなることなど、連続した9年間の学びの充実が図られます。デメリットは、
6年生が最高学年としての自覚を得にくいことなどがありますが、自覚できる場面の設定を
工夫することでデメリットを解消している事例も多くあります。今後、研究会を設置し、三鷹
らしい義務教育学校の在り方を研究していきます。



Q8 「学校3部制」
ってなに？

A8 学校施設を、学校教育の場(第1部)、放課後の場(第2部)、地域の多様な
活動の場(第3部)として多様な形で活用する考え方です。学校教育のた
めだけではなく、子どもたちの学びや遊びの場、居場所として、また、地域の大人
にとっても身近な学びや集いの場として活用します。地域みんなの学校、地域の
共有地(コモンズ)となる学校を目指します。

Q9 第七中の
建物はどう
なるの？



A9 第七中を含め、一つの学校として義務教育学校の制度を活用する
ことを検討しています。ただし、第七中の建物は、市内の中学校の
中では比較的新しいため、建替えではなくリニューアルして使用する方向で
検討しています。



Q10 9年間一
つの学校
で人間関係が固定
化されませんか？

A10 9年間の一貫教育については、学校単位で見れば人間関係が固
定化するなどの面もありますが、1学年1クラスとは異なり、事情に
配慮したクラス替えができる学年規模になります。また、教職員には人事異
動もありますし、児童・生徒数に応じて教職員の規模も大きくなります。より
多くの教職員が関わりを持ちながら、より丁寧に一人ひとりに寄り添った対
応を図ります。

Q11 母校の思い出を
大切にしてほしい！



A11 これまでも、地域の皆様や第七中生から同様のご意見を多く
いただきました。タイムカプセルを埋めた記憶などもあるか
もしれません。学び、活動し、卒業した母校の思い出を継承できるよう、
皆様のご意見を丁寧に聴きながら、新しい学校や現小学校の将来
的な跡地利用において、ソフト・ハードの両面から検討していきます。



2 緑の保全について

Q12 学校等の整備で、天文台の貴重な緑が失われないの？

A12 天文台の森は、市民にとっても貴重な財産であり、次世代に引き継ぐことが大切と捉えています。一方、旧官舎があった天文台敷地北側ゾーンは老木や枯木なども増えており、緑の維持管理の一部に課題がある状況です。今回、市が天文台と連携したまちづくりに取り組むことで、緑地の保全等に十分配慮した敷地の有効活用を推進します。施設整備により貴重な緑が大幅に失われないよう、土地利用範囲を可能な限り少なくする検討とともに、保全・再生についてしっかりと対応してまいります。

Q13 気候変動に対する取組が求められる中、緑をそのまま残せないの？

A13 天文台との相互協力に関する協定に基づいてまちづくりを検討していますが、天文台敷地を無料で利用できるわけではありませんので、全てを公園として市が利用することは、難しいと考えています。市内には、地権者のご協力のもと使わせていただいている借地の公園が多く残っており、順番に買収を進めていることから、別途、新たに公園等としてまとまった土地を購入することは、財政的に難しい状況です。

A14 令和5年1～10月、天文台敷地等において、動植物等の調査を実施しました。植物では、572種が確認されました。このうち市が土地利用を検討している北側ゾーンでは、280種が確認されました。北側ゾーンは竹林や人工林など、やや暗く下草に乏しい環境が多い一方、南側ゾーンは落葉広葉樹林や樹木植栽地などに様々な植物が生育しています。注目種(※)は25種で、北側ゾーンでは9種が確認されました。

※注目種：環境省及び東京都レッドリストカテゴリ区分の掲載種

A15 哺乳類は、市が土地利用を検討している北側ゾーンでは6種確認されました。注目種はニホンアナグマ1種です。鳥類は、北側ゾーンでは30種が確認されました。うち、注目種は、ゴイサギ、ツミなど8種です。詳細は下表をご覧ください。なお、希少な猛禽類であるオオタカについて、天文台敷地内での営巣は確認されなかったものの、南側ゾーンにおいて、繁殖行動のひとつである鳴き交わしが確認されました。天文台の森の保全・再生の検討にあたっては、より丁寧にオオタカの行動圏等を把握するため、さらなる調査が必要と判断し、令和6年2月から追加調査に着手したところです。なお、自然環境調査の内容は、子どもたちの学習などにも活用していきたいと考えています。

Q14 どんな植物があるのですか？

Q15 動物等はありますか？

緑の保全・再整備が必要な状況です

天文台敷地北側ゾーンは、元々は畑が大半でそのほか農家、寺社などがありました。その後、天文台が買収し、官舎を建設し利用されていました。官舎取り壊し後、現在は、荒れた雑木林などになっています。

竹藪に覆われた枯木



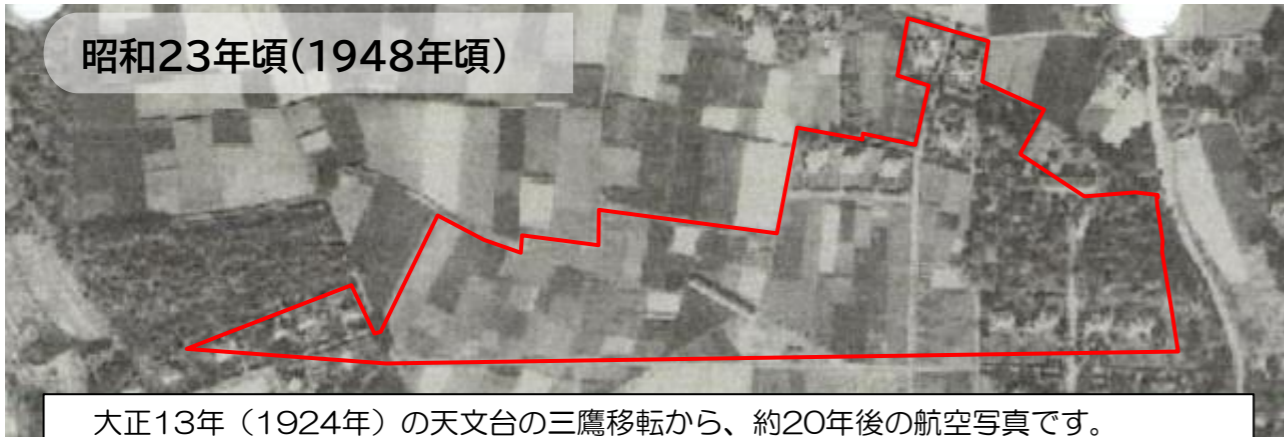
荒れた雑木林



市民にとっても貴重な財産である天文台の森を次世代に引き継ぐ

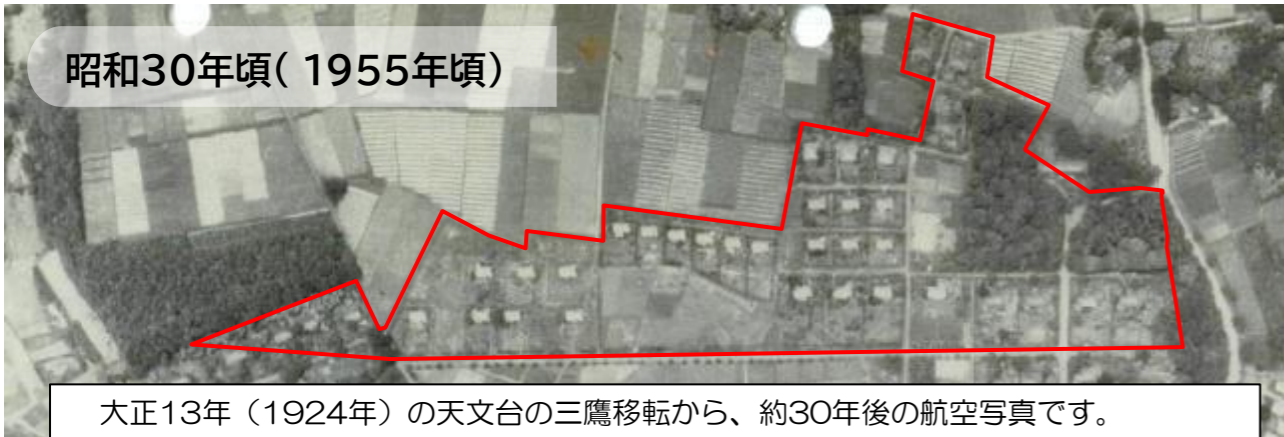
今回、市が天文台と連携したまちづくりに取り組むことで、緑地の保全等に十分配慮した天文台敷地北側ゾーンの有効活用を推進します。施設整備により貴重な緑が失われないよう、保全・再生の方向性について、土地利用基本構想でお示しします。

昭和23年頃(1948年頃)



大正13年(1924年)の天文台の三鷹移転から、約20年後の航空写真です。この時点では、官舎は敷地の北・東・西に約10棟程度が確認されます。敷地中央付近は、天文台用地買収前の畑の区画が確認されます。

昭和30年頃(1955年頃)



大正13年(1924年)の天文台の三鷹移転から、約30年後の航空写真です。この時点では、官舎は敷地全体に建設され、約40棟程度が確認されます。これらの官舎は、平成15年までに取り壊されました。

現在



現在の航空写真です。官舎除却後、北側ゾーンの緑の維持管理には課題のある状況です。

自然環境調査での確認種

分類群	調査地全体		北側ゾーン	
	確認種	注目種	確認種	注目種
植物	572種	25種	280種	9種
哺乳類	6種	1種	6種	1種
鳥類	44種	14種	30種	8種
爬虫類・両生類	5種	4種	5種	4種
昆虫類	668種	10種	442種	3種
クモ類	53種	2種	34種	0種
陸産貝類	13種	0種	11種	0種
合計	1361種	56種	808種	25種

北側ゾーンで確認された注目種(合計25種)

- (1) 植物(9種)：マツバラン、シノブ、ギンラン、キンラン、クゲマラン、ニリンソウ、キクムグラ、マヤラン、タシロラン
- (2) 哺乳類(1種)：ニホンアナグマ
- (3) 鳥類(8種)：ゴイサギ、ツミ、オオタカ、フクロウ、サンコウチョウ、オナガ、センダイムシクイ、ホオジロ
- (4) 爬虫類・両生類(4種)：ニホンヤモリ、シマヘビ、ヒガシニホトカゲ、ニホンカナヘビ
- (5) 昆虫類(3種)：ヒラタクワガタ本土亜種、アカアシオアオカミキリ、トゲアリ



3 防災について

Q16 野川沿いの水害に関する課題を教えてください

A16 天文台の南西縁に沿って国分寺崖線があり、崖線下の野川周辺は、ハザードマップで浸水予想区域に指定されています。羽沢小、大沢コミュニティ・センターは、浸水予想区域内にあるため風水害時の避難所から外れており、防災上の課題があります。



Q17 羽沢小が移転する以外の対策ではだめなの？

A17 最近では線状降水帯等による集中豪雨も多くなっています。市としては、児童の安全性や学校教育の継続性の向上とともに、あるゆる災害に対応可能な避難所の整備等、総合的なまちづくりの観点から、天文台敷地への移転を提案しています。

Q18 そもそも、羽沢小はなぜ、危険な立地にあるの？

A18 羽沢小開校当時(昭和56年)はハザードマップがなく、水害上危険であるとは認識していませんでした。国の指針を受けハザードマップを改訂した際(令和元年)に、河川等が氾濫した場合の避難所運営が困難になることや、二次災害の恐れもあることから、羽沢小や大沢コミュニティ・センターについて、風水害時の避難所指定を解除したところです。



Q19 地震のことも考えると、近くの野川沿いに一時避難場所が無くなることは不安です

A19 野川沿いの地域の皆様から同様の声をいただいています。羽沢小の跡地利用における生活利便性を満たす施設の誘致の中で、震災時の一時避難場所としての機能の継続などを中心に、安全・安心の確保を検討します。

Q20 野川に調節池が整備されたのだから、安全になったのではなかったの？

A20 都は、豪雨対策基本方針(平成26年)に基づき、野川流域においては1時間あたり65ミリ(多摩地域)の降雨を想定し対策を進めています。都が整備を計画している野川流域の調節池が全て完成した場合でも、調節池では65ミリのうち5ミリ分の雨量に対する計画です。ハザードマップで想定されている1時間あたり153ミリの降雨に対応できるものではありません。

その後、都の豪雨対策基本方針は令和5年に改訂され、目標降雨を10ミリ引き上げ、1時間あたり75ミリ(多摩地域)としました。

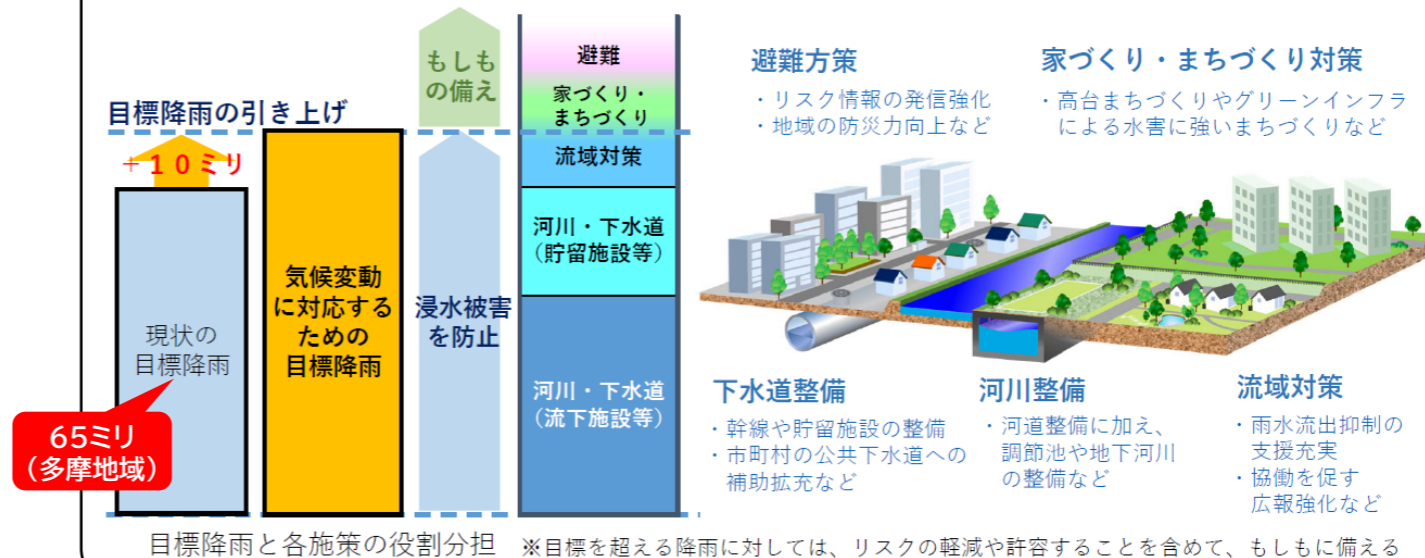
Q21 野川全体で調節池はどの程度整備されているの？

A21 野川全体の調節池の整備率は、野川大沢調節池の拡張工事が完了した時点で約19%となります(野川流域全体の調節池の整備予定108万4千㎡に対し、整備済は20万7千㎡)。

東京都豪雨対策基本方針(改定)の概要

(令和5年12月)

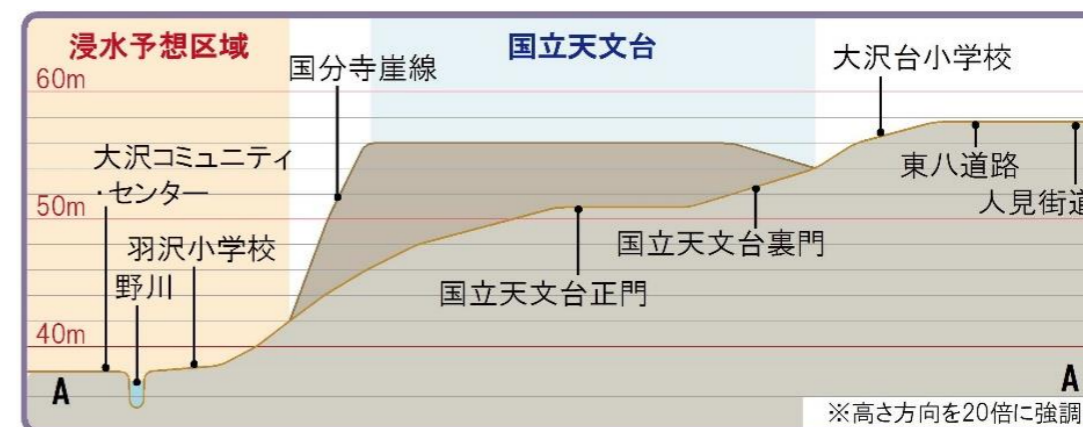
- ・ 気候変動により激甚化・頻発化する豪雨に対して、安全・安心なまちを目指す
- ・ 気候変動に伴う降雨量の増加(1.1倍)に対応するため、目標降雨を引き上げ
- ・ 目標降雨に対して、主に河川整備、下水道整備、流域対策で浸水被害を防止
- ・ 目標を超える降雨に対しても、5つの施策を組み合わせ、もしもに備える
- ・ 重点的な対策強化によって事業効果を早期発現し、都内全域で段階的に事業展開



平成17年豪雨災害と過去の風水害時における野川

平成17年9月に三鷹市を襲った集中豪雨では、1時間に105ミリの降雨がありました。市全域で122件の床上浸水、64件の床下浸水及び地下浸水57件があり、道路冠水も市内全域で確認されました。また、川に向かって下り坂である天文台通りでは、道路が川のようになりました。この時は、野川が溢れることはありませんでしたが、これまでも以下写真のような野川の風水害が発生しており、浸水ハザードマップに示されている浸水被害がいつ起きても不思議ではありません。

天文台通りの高低差



昭和33年 現野水橋付近
<狩野川台風による野川の状況>
出典：写真集みたかの今昔 三鷹市教育委員会



令和元年 野川大沢調節池付近
<台風19号による調節池の状況>



令和3年 相嘗浦橋付近
<8月豪雨による野川の状況>

4 おおさわ commons について

Q22 そもそも、おおさわ commons って何？



図：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について最終報告」（令和4年3月）学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議

A22 新しい学校のほか、移転を検討している西部図書館や学童を含め、地域の共有地「おおさわ commons」と位置付け、多世代が集う居心地の良い交流の場と、安全・安心な地域の防災拠点を創ります。
【おおさわ commons の主な機能】

- ①天文台の森の学校
天文台の豊かな自然の中、ゆとりのある教室など良好な学習環境の中で、学校3部制のモデルとなる学校を創ります。
- ②みんなが集うまちの拠点
子どもから大人まで多くの世代が森の中に集う、居心地の良い交流の場を創ります。
- ③命と暮らしを守る防災拠点
地震・風水害などあらゆる災害に対応可能な防災拠点とし、在宅避難者の支援などにも取り組みます。

学校やおおさわ commons に地域の大人が日常的に訪れることで、子どもたちとの交流や見守りがより図られると考えています。



Q23 どうしておおさわ commons に西部図書館の移転を検討しているの？



A23 他市区の事例を研究してきた中では、地域の交流の場の創出において図書館機能は非常に魅力があると考えています。そこで近隣に位置する西部図書館も移転の検討をし、閲覧スペースの充実やカフェの併設などにより、人々が集い、くつろいだり、交流できる場にしたと考えています。なお、施設計画を検討する際にはセキュリティにも十分配慮します。



5 跡地利用について

Q24 羽沢小の土地は将来どうなるの？



A24 地域の多くの皆様からご要望を頂いている商業施設等の生活利便性を満たす施設の誘致により、買物不便環境の解消を図ることを跡地利用で検討しています。



Q25 羽沢小の跡地にホントに商業施設などできるの？

A25 基本方針の公表以降、事業者から問い合わせをいただいています。実現に向け、調整を進めていきます。皆様からは、クリニックや、カフェ、公共施設の併設などのご要望もいただいていますので、そのような点も含め検討していきます。また、浸水予想区域に商業施設等は来るのかといったご心配の声もいただいておりますが、事業者に浸水リスクなどを説明のうえ、具体的な条件は公募の際に示していきます。

Q26 大沢台小の土地は将来どうなるの？



A26 市内全域の児童・生徒が通える、新たな教育の場の設置を跡地利用で検討します。不登校の子どもや特定分野にたぐいまれな才能のある児童・生徒が通常のカリキュラムにない学びを受けられる仕組みの構築を目指します。



Q27 西部図書館の土地は将来どうなるの？

A27 跡地利用については、今後検討を進めていくこととしています。

6 その他の意見について

Q28 羽沢小が移転しない場合はどうなるの？



A28 今回の取組は、防災、教育、買物等の日常生活、緑地の保全・再生等の総合的なまちづくりや都市経営の観点から、優先的に取り組むプロジェクトと位置付けています。仮に羽沢小の現地建替えを検討する場合は、今後多くの老朽化した公共施設の建替え等を計画的に進める必要があることから、建設年(昭和56年)や建物の劣化状況等を考慮すると、目標使用年数は概ね80年となり、建物の長寿命化を図ったうえで建替えを行うこととなります。加えて、総合的なまちづくりの効果が得られないほか、引き続き浸水予想区域に立地する状況となります。



Q29 学校はいつ頃完成するの？

A29 土地利用基本構想(令和6年度策定予定)で、開校スケジュールの目安をお示しする予定ですので、もうしばらくお待ちください。

Q30 コミセンはどうなるのですか？



A30 天文台周辺のまちづくりについては、段階的な整備を考えています。第一段階として、羽沢小の移転を中心としたおおさわ commons の整備によるまちづくり、第二段階として、羽沢小、大沢台小及び西部図書館の跡地利用によるまちづくり、大沢コミュニティ・センターについては、大沢住民協議会の皆様をはじめ、地域の皆様の移転を含む要望により検討を進めていきます。



Q31 事業費の目安を教えてください

A31 今後、施設計画などを具体化していく「土地利用整備計画(仮称)」の中で、事業費の見通しを明らかにする予定です。その際は、市全体の財政的な影響もお示しし、市民の皆様からご理解をいただくことが重要と考えています。

Q32 若い人たちの声をもっと聴いてほしいです！



A32 これまでの説明会等でも、子育て世代の声を聴いてほしいと、多くのご意見をいただいています。学校の保護者会等の場をお借りして、事業の説明や意見交換などを工夫しています。そのほか、多くの世代の方に分かりやすいよう、ホームページ等での情報発信等にも取り組んでいきます。



Q33 説明会は時間が少ないので、意見を言う機会がないです。情報公開も不十分と感じています…

A33 今後は、事業の進捗に応じたオープンハウス(パネル等を用いた個別対話型の説明会)の開催、おおさわ学園、近隣保育園・幼稚園の保護者会等を通じた情報発信、広報みたかでの定期的な特集記事による進捗説明、本取組についてまとめた「国立天文台周辺地域のまちづくりを考えるガイドブック」の改訂等、多様な手段による市民の皆様との対話や情報発信の展開に取り組めます。

取組の内容をまとめたホームページは、三鷹市ホームページのバナー又は以下QRコードからご覧ください。

お問い合わせ

三鷹市国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局
〒181-8555 三鷹市野崎一丁目1番1号
月～金曜日 午前8時30分～午後5時(祝日、年末年始を除く)
電話 0422-24-9266(まちづくりに関すること)
0422-29-8349(教育に関すること)



皆様のアクセスをお待ちしています！

